

平成28年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：平成28年4月～平成29年3月

1. 学校概要

学校名 岐阜市立島小学校
 種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 中高一貫教育 高等学校
 教員養成 技術/職業教育
 特別支援学校 その他 ()
 所在地 〒502-0911
 岐阜市北島7-6-12
 E-mail gisyo12@shima-e.gifu-gif.ed.jp
 Website <http://cms.gifu-gif.ed.jp/shima-e/>
 児童生徒数 男子355名 女子298名 合計653名
 児童・生徒の年齢 7歳～12歳

2. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか ()

3. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

《本年度の活動内容》

生活科・総合的な学習の時間を中心に ESD の考え方に合った学習の実践を行ってきた。栽培学習・環境学習を通じて地域の自然に働きかけ、福祉活動を通じて人権について考えてきた。地域の方に学びながら、地域のよさを実感させ、持続可能な社会の一員として活動できる子どもを育てていくために実践を重ねて行きたい。

1 ねらい

- ・栽培活動・環境学習を通して、地域の実情を体感し、よさや課題について気付くことができる。
- ・地域の方と触れ合うことを通して、コミュニケーション力を付けることができる。
- ・いろいろな学年の仲間と協力し活動することができる。
- ・ESD の学習内容を踏まえ、体験活動・集会活動に主体的に参加することができる。
- ・体験、調査、学習等から考えた内容を自分の方法で伝えることができる。
- ・自分が学校や地域のためにできることを考え、実現できるように働きかけることができる。

2 ESD の取り組み

① 地域の特色を生かした枝豆活動を中心とした ESD 活動

島小学校区の土地は砂地が多く、枝豆やホウレンソウ作りが盛んである。そこで、島農協青壮年部の方の協力を得て、枝豆活動を ESD の教材として全校で取り組んだ。児童は、地域の特色、地域のよさを感じながら体験活動を行うことができている。学年の発達段階に応じて、枝豆活動を通じて ESD を行う意義を伝えてこの活動を行った。全校で活動することで、同じ学年だけでなく、他学年とも協力しながら活動を行ったり、上の学年の児童が下学年の児童に教えたりする姿も見られた。

また、枝豆活の収益金はユネスコに寄付させていただいた。昨年度は、寄付金の一部で行った植樹を「世界に温かい心を育てる会」で紹介させていただいた。この活動は、毎年続いており、地域や家庭の協力を得て行っている。

この学習で児童は、ESD の意義と学習の仕方を学んだ。

さらに、各学年では、生活科・総合的な学習の時間・教科等を枝豆活動と関連させながら、ESD の活動を発展させて学習を行った。また、ESD 活動を学校生活に生かしたり、地域と共にボランティア活動を行ったりすることにより、あたたかい心を広げる活動を行っている。

枝豆活動

4月

種蒔き（全校）
移植（5・6年生）

観察（全校）、選果場見学（3年生）

収穫（全校）
鞘ちぎり（3年生～6年生）
袋詰め（4年生）
バザー ちらし作り（3年生）
看板作り（1年生）
販売（2年生）

ESDを知る

ESDとは。
枝豆活動を通じてESDを行う
意義・願い

総合的な学習の時間（6年生）

「国際理解」

ESDとは。
様々な国の現状を知る（カンボ
ジア、世界寺子屋運動）
国際的な問題を調べる
自分達にできること。

世界にあたたかい心を届ける集会

（岐阜県ユネスコ協会青年部「結」との交流）

カンボジアの現状を知る、寄付金・文具等を届けていただく、届けた様子

② 各学年のESD活動

島小学校では、枝豆活動を中心にしてESD学習の実践を行ってきた。さらに、この活動を発展させ、生活科・総合的な学習の時間・教科等と関連させながらESD活動を実践してきた。学年の発達段階に合わせてESDの意味、自分達の活動が「持続可能な社会」を目指す上でどのような意味があるのか考えさせ、学習を積み重ねている。

- 1年生：栽培活動、虫取り、国際交流
- 2年生：生き物見つけ、校区探検、ホウレンソウ栽培、国際交流
- 3年生：公園活動（花の栽培）、国際交流
- 4年生：島地区の歴史、ひょうたんの栽培、長良川博士になろう（環境調べ）、国際交流
- 5年生：福祉、鶺鴒見学、国際交流
- 6年生：島地区や岐阜市の歴史、国際理解教育、世界遺産学習、国際交流

6年生：国際理解教育（総合的な学習の時間）から全校の活動へ

ESDとは何かを学習し、6年生は様々な国について、現状を学んだ。特に、何年もの間交流をしているカンボジアの現状や世界寺子屋運動について、調べる活動をしながら国際的な課題について考えまとめる学習をしてきた。そして、全校集会で、全校に「家で使わなくなった文具を送ろう」「書き損じはがきを集めてください」と呼びかけ、自分達に何ができるかを考え行動してきた。岐阜県ユネスコ協会青年部「結」の方々に委



託し、枝豆で得た収益金と共にカンボジアの寺子屋へ届けていただいている。

届けていただく際には、「結」の方々に学校へ来ていただき、寄付金・文具等をお渡しすると共に、カンボジアの現状を伝えていただき、全校児童で学ぶ機会を設けた。この全校が参加する「世界にあたたかい心を届ける集会」は委託をするだけでなく、全校がカンボジアの状況を知り、自分達が集めた文房具や枝豆の収益金がどのように使われるのか学ぶ機会になった。また、3月には、もう一度、学校へ来ていただき、小学校の児童が届けられた文具を使っている様子などを報告、紹介していただく計画である。



世界にあたたかい心を届ける集会

この活動を通して、児童は社会問題を捉え、関心をもち、様々な国の実情や国際的な問題について調べることができた。また、そこから自分には何ができるか考えることができている。

③ ESD を学校生活に生かす

島小学校の3つの重点に「あいさつ」「そうじ」「授業」がある。

それを受けて、日常生活において、思いやりの心を育てようと、児童会が中心になり、「あいさつキャンペーン」を継続的に行ってきた。「えだまめ挨拶（㊦がおで ㊧れにでも ㊨ず自分から ㊩を見て）」を合い言葉に気持ちのよい挨拶を目指している。この活動は、地域・中学校区が連携して活動しており、あたたかい挨拶が広がっている。

④ 地域とともにボランティア活動

島小学校では、児童の父親が中心になり、「父親協力委員」が結成され、毎年行っている「学校のトイレそうじ」を実施した。自治会中心の「地域の公園掃除」も毎年秋に位置づけていて、落ち葉を拾ったりごみ拾いをしたりした。多くの児童が自主的に参加し、小学生・中学生・保護者・教員が一緒になり掃除を行った。自分達の学校地域を自分達の手できれいにしようという気持ちが育ちつつあり、学校での落ち葉そうじや自主的に行っている休み時間の「ゴミ拾い隊」の活動につながっている。



地域の方と公園掃除



学校のイチヨウの葉の落ち葉ひろい

⑤ ユネスコスクール交流会への参加から

金沢で行われたユネスコスクール交流会に参加して、各校で行われている実践を学んだり、自校の実践について説明したりした。交流会では、さらに詳しく実践の内容を知ることができた。交流会で学んだ内容を、帰校後、職員に報告し、

自校の実践の内容を再確認するとともに、自校の実践に生かす内容についても考えることができた。

3 今年度の実践を振り返って

- 枝豆活動を中心に各学年の活動を行うことで、特産物を育てることや地域の方に学ぶことで地域のよさを感じ、地域の方や仲間と一緒に活動する楽しさを感じることができた。こういった活動が、地域の自然や環境を考えることにつながった。
- カンボジアの現状を知ることから枝豆の収益金や文房具を贈る活動などを行い、世界にあたたかい心を届ける活動が児童に位置づき、温かい心が育ちつつある。また、自分たちの活動が現地に伝わり、役立っていることが分かり自己有用感が育ってきている。
- 6年生の総合的な学習の時間に、世界寺子屋運動やユネスコ活動の意義を調べ、他の国の実情を知ることにより理解が深まり、文具を贈ろうと全校に呼びかける活動につながった。
- 地域の方に枝豆や大根等の栽培を通じて学校活動に協力していただけるようになってきた。PTA 活動もユネスコを意識して、活動をバックアップしていただけるようになってきた。
 - ・限られた保護者や地域住民だけでなく、多くの方が学校のユネスコの活動を理解し、協力をもとめられるようにしたい。
 - ・他校との連携体制が不十分である。ユニセフスクールの輪を広げ、活動を活性化させたい。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（

）